



2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年11月9日

上場取引所 東

上場会社名 カップ・クリエイティブ株式会社

コード番号 7421 URL <https://www.kappa-create.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山角 豪

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 武井 伸夫 TEL 045-224-7095

四半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	36,242	4.1	746	-	777	-	629	-
2023年3月期第2四半期	34,820	5.2	△726	-	△728	-	△1,011	-

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 619百万円 (-%) 2023年3月期第2四半期 △998百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	12.76	-
2023年3月期第2四半期	△20.49	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第2四半期	31,284	9,325	29.6	187.53
2023年3月期	28,938	8,696	29.8	174.79

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 9,253百万円 2023年3月期 8,623百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2024年3月期	-	0.00	-	-	-
2024年3月期(予想)	-	-	-	-	-

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

(注) 2024年3月期の配当につきましては、現在、未定です。

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	74,289	5.5	1,584	-	1,623	-	1,140	-	23.11

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 － 社 （社名） 、除外 － 社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期2Q	49,414,578株	2023年3月期	49,414,578株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	71,597株	2023年3月期	77,597株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期2Q	49,338,751株	2023年3月期2Q	49,388,719株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項につきましては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料・決算説明会内容の入手方法）

当社は、2023年11月15日（水）に機関投資家・アナリスト向け説明会をLIVE配信で開催する予定です。この説明会の資料については、後日当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(偶発債務)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、インバウンド需要の回復や、経済活動正常化の動きが加速し、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準へ回復基調にありました。一方で、円安やウクライナ情勢の長期化による原材料価格・エネルギーコストの上昇に起因する生活必需品の値上げも相次いでおり、消費者の生活防衛に対する意識の高まり等による節約志向が一層強まっております。

外食産業におきましては、インバウンド需要が回復傾向にあるものの、原材料価格や光熱費、物流費及び人件費の高騰などといったコストアップが継続し、厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、当社におきましては、「お客様の喜びが私たちの喜びです」という社是のもと、「一皿100円（税込110円）」商品を100種以上に拡充する価格訴求に取り組んでまいりました。また、厳選したネタを販売するフェアを実施し、切付・接客技術の向上（切付マイスター制度・接客マイスター制度）や、リーダー人材育成に注力することで、価値訴求を進めております。

また、当第2四半期連結累計期間において、既存店舗の改装投資45店舗を実施いたしました。改装店舗においては、フルオーダー化や自動案内システム、セルフレジ、ご自身のスマートフォンがタッチパネル替わりになる「スマホオーダー」、テイクアウト専用ロッカーを導入し、顧客の利便性向上につながるサービスを強化しております。

一方、コストアップの継続に対しては、生産性を向上させ、商品廃棄を低減させるフルオーダー化（9月30日現在：292店舗）を進めることで対応してまいりました。また、コロナワイドグループのシナジー効果を活かし、コロナワイドグループ全体で業態間の連携による食材歩留まりを意識したメニュー開発を実施し、原材料コストを低減するとともに食品ロスを低減するSDGs活動に取り組んでおります。

当社では、引き続きテレビCM、アプリ等を活用した認知・好意の拡大でお客様の喫食を促すとともに、「今日もかっぱがうまいらしい！」とお客様に喜んでいただける商品、サービス、空間作りに注力してまいります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は362億42百万円（前年同四半期比4.1%増）、営業利益は7億46百万円（前年同四半期は営業損失7億26百万円）、経常利益は7億77百万円（前年同四半期は経常損失7億28百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は6億29百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失10億11百万円）となりました。

次に事業の種類別セグメントの概況をご報告申し上げます。

<回転寿司事業>

回転寿司事業におきましては、定期的に限定ネタを「一皿100円（税込110円）」で提供する「厳選100円（税込110円）祭り」の開催や、「まぐろ」や「ねぎとろ軍艦」などを大切り・特盛りで提供するお得感・贅沢感が満載の「かっぱの大切り特盛り祭り」の開催などを行いつつ、「一皿100円（税込110円）」商品が100種以上となる価格訴求に取り組んでまいりました。同時に、「うに」「いくら」「うなぎ」などの高級食材ネタを堪能するフェア、北海道・九州・沖縄等の国産食材を使ったフェアを行い、また京都屈指の日本料理店と評される「祇園さゝ木」監修の第5弾「名店レシピ」4商品の販売等を通じて、価値訴求を進めてまいりました。更には、タレントを起用したテレビCMなどを通じて、情報を発信してまいりました。

また、「クレヨンしんちゃん」や「プリキュア」等のお子様人気があるキャラクターとタイアップしたアプリ会員向けオリジナルグッズプレゼントキャンペーンなど、ファミリー顧客獲得に取り組んでまいりました。

寿司以外の商品におきまして、スイーツブランド「ごちCAFE」では「桔梗屋」と共同開発をした和スイーツ商品の販売、「本格ラーメンシリーズ」として第25弾「家系総本山 吉村家」監修の「横浜家系ラーメン」、第26弾「博多一雙」監修の「博多豚骨ラーメン」の販売、アプリ会員限定で「生ビールほぼ半額キャンペーン」を定期的に期間限定で開催することで、多様な消費者ニーズへの対応を図っております。また、当社ブランドでは初となる、環境に優しく、美味しい陸上養殖（閉鎖循環式）サーモン「鳥取グランサーモン」を使用した商品を期間・店舗限定で販売し、食のインフラの担い手として、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを進めております。

なお、当第2四半期連結会計期間末での店舗数は292店舗となります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における回転寿司事業の売上高は292億23百万円（前年同四半期比5.5%増）となりました。

<デリカ事業>

デリカ事業におきましては、コンビニエンスストアやスーパー、ドラッグストアを中心に新規取引先の拡大を図ってまいりましたが、既存顧客への販売が伸び悩んだことが影響し、売上高が前年同四半期比で減少となりました。そのような中、コロワイドグループのシナジー効果を活かし、グループ購買の拡大等を通じた原材料コストの低減を進め、またグループ内企業に対するデザート製品の製造・販売拡大に取り組んでおります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるデリカ事業の売上高は70億18百万円（前年同四半期比1.3%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産・負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は312億84百万円となり、前連結会計年度末に比べ23億46百万円増加いたしました。これは主に現金及び預金が12億68百万円増加、機械及び運搬具が6億85百万円増加、工具、器具及び備品が6億94百万円増加、敷金及び保証金が1億45百万円減少したことによるものです。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における総負債は219億59百万円となり、前連結会計年度末に比べ17億17百万円増加いたしました。これは主に買掛金が3億76百万円減少、長期借入金及び1年内返済予定の長期借入金が23億10百万円増加、社債及び1年内償還予定の社債が2億90百万円減少したことによるものです。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は93億25百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億28百万円増加いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益6億29百万円により利益剰余金が増加したことによるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、営業活動によるキャッシュ・フローが11億82百万円増加、投資活動によるキャッシュ・フローが12億42百万円減少、財務活動によるキャッシュ・フローが13億28百万円増加した結果、前連結会計年度末より12億68百万円増加し、87億86百万円（前連結会計年度末は75億18百万円）となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、11億82百万円（前年同四半期は得られた資金14億71百万円）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益7億45百万円、減価償却費10億68百万円、仕入債務の減少3億76百万円、未払費用の減少1億37百万円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、12億42百万円（前年同四半期は使用した資金3億98百万円）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出12億86百万円、敷金及び保証金の回収による収入64百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、13億28百万円（前年同四半期は使用した資金14億71百万円）となりました。これは主に、長期借入れによる収入30億円、長期借入金の返済による支出6億90百万円、社債の償還による支出2億90百万円、割賦債務の返済による支出6億76百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年5月11日の「2023年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,518	8,786
売掛金	3,387	3,374
商品及び製品	421	398
原材料及び貯蔵品	391	399
その他	796	899
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	12,514	13,857
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	26,014	26,394
機械装置及び運搬具	6,334	7,020
工具、器具及び備品	8,104	8,798
土地	1,645	1,645
リース資産	1,283	1,218
建設仮勘定	—	33
減価償却累計額	△32,332	△32,838
有形固定資産合計	11,049	12,271
無形固定資産		
	172	165
投資その他の資産		
投資有価証券	851	854
敷金及び保証金	3,660	3,515
繰延税金資産	563	535
その他	110	74
貸倒引当金	△2	△2
投資その他の資産合計	5,184	4,976
固定資産合計	16,406	17,414
繰延資産		
社債発行費	17	12
繰延資産合計	17	12
資産合計	28,938	31,284

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,418	3,042
1年内返済予定の長期借入金	1,380	1,980
1年内償還予定の社債	580	580
未払金	2,449	3,069
未払費用	1,556	1,418
リース債務	15	—
未払法人税等	189	88
賞与引当金	84	85
販売促進引当金	135	136
店舗閉鎖損失引当金	111	57
その他	944	1,001
流動負債合計	10,865	11,460
固定負債		
社債	590	300
長期借入金	4,170	5,880
長期未払金	3,007	2,771
資産除去債務	1,506	1,416
その他	102	131
固定負債合計	9,375	10,498
負債合計	20,241	21,959
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	11,001	8,585
利益剰余金	△2,391	658
自己株式	△65	△60
株主資本合計	8,645	9,283
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2	△0
繰延ヘッジ損益	△18	△29
その他の包括利益累計額合計	△21	△30
非支配株主持分	72	72
純資産合計	8,696	9,325
負債純資産合計	28,938	31,284

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 （四半期連結損益計算書）
 （第2四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）
売上高	34,820	36,242
売上原価	17,140	17,352
売上総利益	17,679	18,889
販売費及び一般管理費	18,406	18,142
営業利益又は営業損失（△）	△726	746
営業外収益		
受取利息	15	11
受取配当金	50	55
受取家賃	121	112
自動販売機収入	3	16
協賛金収入	2	3
雑収入	26	25
営業外収益合計	220	223
営業外費用		
支払利息	74	81
社債利息	8	4
賃貸収入原価	107	92
雑損失	31	14
営業外費用合計	222	193
経常利益又は経常損失（△）	△728	777
特別利益		
固定資産売却益	—	1
店舗閉鎖損失引当金戻入額	—	11
特別利益合計	—	12
特別損失		
固定資産除却損	130	43
特別損失合計	130	43
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△858	745
法人税、住民税及び事業税	93	88
法人税等調整額	61	28
法人税等合計	155	117
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△1,014	628
非支配株主に帰属する四半期純損失（△）	△3	△1
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△1,011	629

（四半期連結包括利益計算書）
（第2四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△1,014	628
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	1
繰延ヘッジ損益	15	△11
その他の包括利益合計	15	△9
四半期包括利益	△998	619
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△995	620
非支配株主に係る四半期包括利益	△3	△0

（3）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△858	745
減価償却費	1,000	1,068
賞与引当金の増減額（△は減少）	5	0
店舗閉鎖損失引当金の増減額（△は減少）	—	△53
受取利息及び受取配当金	△66	△66
支払利息及び社債利息	83	86
固定資産除却損	130	43
固定資産売却損益（△は益）	—	△1
売上債権の増減額（△は増加）	△89	13
棚卸資産の増減額（△は増加）	△98	15
仕入債務の増減額（△は減少）	337	△376
未払金の増減額（△は減少）	206	△3
未払費用の増減額（△は減少）	15	△137
未収消費税等の増減額（△は増加）	54	△0
未払消費税等の増減額（△は減少）	26	△5
その他	131	69
小計	880	1,399
利息及び配当金の受取額	66	66
利息の支払額	△81	△94
助成金の受取額	777	—
法人税等の支払額	△171	△189
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,471	1,182
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△416	△1,286
有形固定資産の売却による収入	—	1
無形固定資産の取得による支出	△7	△37
敷金及び保証金の差入による支出	△4	△0
敷金及び保証金の回収による収入	39	64
預り保証金の受入による収入	—	38
その他	△9	△20
投資活動によるキャッシュ・フロー	△398	△1,242
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	400	3,000
長期借入金の返済による支出	△690	△690
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△42	△15
社債の償還による支出	△575	△290
割賦債務の返済による支出	△564	△676
配当金の支払額	△0	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,471	1,328
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△397	1,268
現金及び現金同等物の期首残高	9,407	7,518
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,009	8,786

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、2023年5月22日開催の取締役会において、欠損を填補し、早期の財務体質の強化を図るとともに今後の資本政策の柔軟性及び機動性を確保することを目的として、剰余金の処分が決議され、同日付で処分を実施致しました。この結果、当第2四半期連結累計期間において、その他資本剰余金が24億20百万円減少し、利益剰余金が24億20百万円増加しております。

（偶発債務）

（訴訟等）

当社は、元役員及び社員による競合会社の営業秘密に係る不正競争防止法違反の疑いに関して、2022年10月21日に元役員及び社員と共に同法の両罰規定に基づき起訴されており、元役員については、2023年5月31日に有罪判決が言い渡され、同判決が確定しております。当社及び社員は犯罪の成立を争っており、本件については、今後の推移によって当社の将来の連結業績に影響を及ぼす可能性があります。現時点でその影響額を合理的に見積もることが困難であるため、四半期連結財務諸表には反映をしておりません。